



CHAPTER 1

ご使用にあたって

この章では、Cisco License Manager リリース 3.0 で Java Application Programming Interface (API; アプリケーションプログラミング インターフェイス) を使用するための概要と必要なインストール情報を示します。この章の内容は次のとおりです。

- [「概要」 \(P.1-1\)](#)
- [「インストール」 \(P.1-1\)](#)
- [「SDK の使用方法」 \(P.1-3\)](#)

概要

Cisco License Manager はオブジェクト指向の Java API を備えており、Cisco License Manager バックエンド サーバに実装された関数をクライアント プログラムから呼び出すことができます。

この API は一連の Java クラス ライブラリが集まったもので、単一の Java アーカイブ (JAR) ファイルに格納されています。最上位クラスの License Manager には、クライアント プログラムから呼び出すことができるすべての関数が含まれます。これは、Cisco License Manager Graphical User Interface (GUI; グラフィカル ユーザ インターフェイス) で使用されるクラス ライブラリ セットと同じです。このガイドでは、クライアント プログラムから見た外部 Java API について説明します。

インストール

Java API は、Java を使用して Cisco License Manager サーバと通信します。

この項では、次のインストール情報を示します。

- [「API の前提条件」 \(P.1-1\)](#)
- [「Cisco License Manager SDK のインストール」 \(P.1-2\)](#)

API の前提条件

API には Java Development Kit (JDK) バージョン 1.6 が必要です。

表 1-1 に、Cisco License Manager サーバのソフトウェアおよびハードウェア要件の詳細を示します。これらの要件は最大のデータ容量 (ネットワーク上にある 500,000 台のシスコ デバイス) をサポートします。これらの要件は、サーバとクライアントを同じホストにインストールする場合にも有効です。

表 1-1 サーバのソフトウェアおよびハードウェア要件

要件の種類	要件 (500,000 台のデバイス)	最大容量 (500,000 台のデバイス) での 要件
プロセッサ	Pentium 3 1.0 GHz、またはそれに相当する CPU Sun UltraSPARC IIIi、またはそれに相当する CPU	Intel Core 2 Quad、またはそれに相当する CPU Sun UltraSPARC T1/T2、またはそれに相当する CPU
ソフトウェア	オペレーティング システム <ul style="list-style-type: none"> Windows Server 2003 R2 Standard Edition Windows XP Professional Solaris 10 Red Hat Linux Enterprise 5 VMware ESX Server 3 仮想マシン環境 	オペレーティング システム <ul style="list-style-type: none"> Windows Server 2003 R2 Standard Edition Windows XP Professional Solaris 10 Red Hat Linux Enterprise 5 VMware ESX Server 3 仮想マシン
RAM	1 GB	4 GB
ディスク	500 MB	20 GB
Java 要件	1.56 12	

Cisco License Manager SDK のインストール

Cisco License Manager Software Developer Kit (SDK; ソフトウェア開発キット) は、サーバが存在する同じマシンにインストールすることをお勧めします。

Cisco License Manager SDK をインストールするには、次の手順に従います。

ステップ 1 CD からローカル ドライブに `clm_java_sdk.zip` をコピーします。

ステップ 2 ファイルを解凍します。

フォルダ「CiscoLicenseManager_JAVA_SDK」がローカル ドライブに作成されます。このフォルダには次のファイルが含まれます。

`clm-sdk.jar`

`clm_ssl_rmi.cert`

`conf` (ファイル `ClmErrorMessages.properties` を含むフォルダ)

SDK の使用方法

SDK の使用を開始するには、次の手順に従います。

ステップ 1 クライアントプログラムをコンパイルして実行するときに、`clm-sdk.jar` を Java クラスパスに追加します。

```
javac -classpath <CLM_SDK_HOME>/clm-sdk.jar:<CLM_SDK_HOME>/conf MyProgram.java, where  
<CLM_SDK_HOME> is the directory that holds the CLM SDK files
```



(注) CLM 3.0 SDK クライアントプログラムをコンパイルして実行するときは、Java バージョン 6.0 を使用する必要があります。



(注)

ステップ 2 Cisco License Manager サーバで Secure Sockets Layer (SSL) が有効になっている場合：

次のコマンドを実行して、Cisco License Manager 証明書ファイル (`clm_ssl_rmi.cer`) をクライアントシステム上のトラストストアにインポートします。

```
%JAVA_HOME%\bin\keytool -import -keystore <keystore_file_path> -alias  
ciscolicensemanagerca -file <clm_ssl_rmi_cer_file_path>
```

ここで、`<keystore_file_path>` はクライアントシステムのトラストストア（たとえば、`C:\jdk1.5\jre\lib\security\cacerts`）で、`<clm_ssl_rmi_cer_file_path>` は `clm_ssl_rmi.cer` ファイルのフルパス（たとえば、`C:\CLM3.0_SDK\clm_ssl_rmi.cer`）です。

ステップ 3 Cisco License Manager サーバを起動します。詳細については、Cisco License Manager のユーザガイドを参照してください。

ステップ 4 クライアントプログラムを起動します。

